

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 74

2011.2.20 (日)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今月の日本の海」 北海道厚岸湾大黒島**

北海道の東部、厚岸湾口にある無人島「大黒島」は、日本のみならず世界の野鳥愛好家なら知らない人はいないほどの有名な海鳥の観察場所である。北の海鳥のコシジロウミツバメの国内唯一の集団営巣地として知られ、約 200 万羽がこの島で営巣する。その他にも、



オオセグロカモメ、ウトウなどが多数営巣する。周辺の海は立派なコンブ類の海中林が優占し、コンブの良漁場でもある。暖流の影響のない典型的な親潮の生物相をもち、オニヒザラガイ、オオバンヒザラガイなどが見られる。海中ではイシコ、キンコなどのナマコ類やウミアザミなど

のサンゴ礁とは違ったカラフルな生物相が見られるのも特徴的だ。ゼニガタアザラシの上陸・繁殖地としても有名。一時減少したが、現在では約 300 頭が生息している。

(厚岸町大黒島にて 向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の日本の海」 北海道厚岸湾大黒島

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 新連載：「きらめく動物たちの命と海-久保田信の白浜便り-」
5. 海の生き物に関する論文・書籍・DVD など
6. 事務局便り
7. 編集後記

\*\*\*\*\*

**△新連載：きらめく動物たちの命と海 一久保田信の白浜便りー が始まりました。  
乞うご期待！**

**△明日、中国電力が工事強行か？ 田ノ浦埋め立て**

それぞれの関連記事をごらんください

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【国際】

#### ●日本が調査捕鯨を中止 妨害行為を理由に

日本政府は2月18日、毎年行っている南極海調査捕鯨を今年は現時点で中止すると発表した。3月中旬まで実施を予定していた。中止する理由として鹿野道彦農水相は、反捕鯨団体シー・シェパード（SS）による捕鯨母船「日新丸」への妨害で、今期調査の継続は無理と判断したという。日本政府が調査捕鯨を途中で打ち切ることにしたのは、初めてである。鹿野農水相は記者会見で、「来年の南極海調査捕鯨をどうするかはこれから検討する」と述べ、今後南極海での調査捕鯨をしない可能性も示唆した。SSによる妨害を理由に中止を決めたが、実際は鯨肉の消費が落ち込んでおり、経済的に調査捕鯨が成り立たないことを政府も認めざるをえなくなった。さらに鯨肉の政治家や一部の関係者に横流しやプレゼントされていたことが日本の環境保護団体「グリーンピース・ジャパン」の職員によって暴かれ、さすがに今後横流しをおおっぴらにすることが出来なくなり、旨みが無くなってきたという事情もありそうだ。

日本政府が調査捕鯨の中止を決めたことを受けて、オーストラリアとニュージーランド政府は直ちに歓迎する談話を発表した。オーストラリア政府が昨年日本の南極海調査捕鯨の中止を求めて国際司法裁判所へ起こした訴えも取り下げない方針を示した。日本の新聞・テレビはこぞって「暴力に屈した」「国益に反する」「科学への冒涇」などというナショナリスティックな反応を示しているが、調査捕鯨の問題点を一度も報じてこなかった

これらマスコミの責任が問われるべきだろう。日本のマスコミではシー・シェパードの行為は悪魔の仕業のように報じられているが、世界のマスコミはけっしてそうではない。日本の常識は世界の非常識というのが、今の常識。日本の若者も鯨肉を食べるのが日本の食文化などとは信じていない。

## 【全国】

### ●ウナギの卵を初めて発見 保全につなげられるか？

東京大学大気海洋研究所の塚本教授らのグループが、天然産卵されたウナギの卵を初めて採集した。ニホンウナギに限らず世界のウナギ類でも初めてという。見つかったのはマリアナ諸島の西、本州から 2000km も離れた太平洋の真ん中。31 個の生まれて間もない卵が見つかった。見つかった卵は遺伝子解析を行い、日本に生息するウナギの卵であることが確認された。

ウナギは、川や池、湖などの淡水に生活し、人々の暮らしにも身近な魚であるが、産卵は成魚が海に下り、どこか遠くの海に出かけて深い海の底で産卵すると言われていた。しかし、これまで誰もそれを証明した者はいなかった。ウナギの稚魚は柳の葉っぱのような浮遊生活に適した形をして海の中を漂い、体が締まって遊泳能力を付けた細長い幼魚になって日本の川の河口付近に集まり、川を遡って成長する。ウナギの卵は、ウナギの成魚にホルモンを投与することによって強制産卵させる技術が日本で開発され、それによって卵の形態やわずかに 2 日で孵化することまでが分かっていた。

日本で食べられているウナギの大部分が河口に集まってきた幼魚（シラス）を捕らえ、養殖池で成魚にまで養殖したものだが、養殖のためにウナギのシラスを大量に捕獲した結果、天然のウナギが河川から大幅に減少している。ウナギの資源保護は緊急の課題になっている。ウナギの卵発見を報じたメディアの多くが、「卵から成魚までの完全養殖技術」に道を開くと賞賛しているが、ウナギの完全養殖ができれば、かえってウナギの保護は顧みられなくなるだろう。この発見が、天然のウナギの保護・保全に有効に使われることを願いたい。

## 【北海道】

### ●白老沖でキングサーモンを捕獲

北海道白老町の沖で、遊漁船の釣り客がキングサーモンを釣り上げた。サクラマスを釣っていてかかったもので、キングサーモンが釣れるのはこのあたりの海ではきわめて珍しい。白老港には 3 年前にも一度キングサーモンが揚がったことがあるという。キングサーモンは標準和名でマスノスケ。カムチャッカやアラスカ、カナダ沖などに生息し、日本の河川では産卵しない。

## 【東北】

### ●トドの出現に備えて強化網

津軽海峡でニジマスを海で育てる「海峡サーモン」を養殖している北彩漁業組合では、トドによる被害を防ぐために、強化網を養殖いけすに導入することにした。今年はまだトドの被害はないが、昨年初めてトドの被害を受けたことから、今年は早めに対策をとることにしたという。青森県むつ市が事業費の半分以上を補助する。最近、青森県の下北・津軽半島には、1月から春になるまでに北海道からトドがやってくるようになったという。数などの情報はないが、昨年は300万円ほどの被害が出た。北海道に出現するトドの個体数が増加しているのかもしれない。

## 【関東】

### ●廃カイロを利用 鉄炭団子で海を浄化？

海の植物プランクトンや海藻の生産に鉄が重要な役割を果たしていることが明らかになってきた。そのことから、海に鉄を入れて生産性を上げようとする試みが各地で鉄鋼会社などによって進められている。これらの多くは、鉄鋼スラグを利用しようとするもので、これまでも「うみひろも」紙上で批判してきた。ところが、使い捨てカイロの鉄粉を米で作ったのりで団子状に練り上げて焼き、鉄炭団子として海に入れようというアイデアが山口県宇部市の無有産（むーぶ）研究所の杉本代表によって考案された。使い捨てカイロは、鉄と炭が密着した粒子で、水に入れると鉄イオンが発生するという。杉本さんはホンダワラなどの海藻が鉄イオンを取り込んで成長したことを確認したと主張。横浜のみなとみらい21地区の日本丸訓練センターで開かれた水質改善を考えるシンポジウムで報告した。しかし、海の生産性を上げることと、海の浄化とはむしろ同じではない。鉄炭団子で果たして海の浄化につながるか、それとも生産性の増加につながるか、科学的で厳密な検証が必要で、それまであちこちの海に鉄炭団子を放り込むのはやめて欲しい。

### ●三番瀬でハジロコチドリなど 44種の鳥を観察

東京湾の最奥部にある三番瀬で、千葉県野鳥の会と日本野鳥の会東京支部が共催して今年最初の観察会が開かれ、過去最高の44種の野鳥が観察された。この日は、カヤックで釣りをする人や水上スキーもなく、鳥たちが干潟や浜辺で盛んに餌をついばんでいる様子が観察された。珍しいハジロコチドリが2羽観察され、参加者は大喜び。ハマシギ、ミユビシギ、ミヤコドリ、シロチドリ、オナガドリ、スズガモ、オオバンなどの野鳥も観察された。

## 【東海】

### ●名古屋・堀川でスナメリ発見

名古屋市西区の堀川の河口から12km遡ったところあたりで、世界最小のクジラとして知られるスナメリが発見された。三河湾にはスナメリが生息するが、川を遡ったスナメリは初

めて。何らかの理由で迷い込んだと見られる。体長は 1.6m ほど。住民の知らせで名古屋港水族館の職員がスナメリと確認した。一方、同じ日に名古屋港水族館で飼育されていたスナメリが死んだ。偶然の一致だろうが、考えさせられる。この堀川のスナメリも名古屋港水族館が「保護」した。たとえ迷い込んだとしても、釧路川のラッコの例や多摩川のアゴヒゲアザラシの例もあり、「保護」する必要があるのだろうか。水族館のありようも含めて、みんなで議論していきたい。

## 【近畿】

### ●珍しい南方系アズキイボヒトデ

熱帯・亜熱帯の海に生息する珍しいヒトデ「アズキイボヒトデ」が、和歌山県すさみ町沖水深 20m の伊勢エビ刺し網で捕獲された。体は黄色だが、背面に茶褐色のいぼが多数あって、全体に茶色に見える。大きさは直径約 18cm。昨年 10 月にも捕獲されてすさみ町江住の「町立エビとカニの水族館」が国内で初めて展示しているが、今回捕獲されたものは、京大白浜水族館に展示されるという。

### ●南方系大型フグ「モヨウフグ」 低水温で瀕死？

和歌山県みなべ町山内の千里の浜に、熱帯に生息する珍しいフグ「モヨウフグ」が弱って漂着しているのが見つかった。住民が発見し、地元の専門家がモヨウフグと同定した。全長は 41.1cm。最大で 90cm くらいまで大きくなる種類で、南アフリカ・紅海・インド洋などに生息し、日本でも南日本に分布するといわれるが、比較的珍しい。今年の冬の海水温の低下で体がマヒして打ち上げられたと報じられているが、事実かは不明。

### ●節分に「海の鬼退治」 オニヒトデの駆除と供養

和歌山県和歌山市の環境保護団体「紀州灘環境保全の会」が白浜町臨海のダイビングサービス店といっしょに、節分の日に「海の鬼退治」として、白浜町四双島周辺で今年もオニヒトデの駆除活動を行った。この日は 6 人のダイバーが、30 分かけて合計 25 個体のオニヒトデを捕まえた後、江津良浜の砂浜で白浜町本覚寺の僧侶によるオニヒトデ供養を営んだ。会長は「2 年間で 575 匹のオニヒトデを駆除して、サンゴはある程度守られた。しかし、オニヒトデも一つの命。供養して新たな気持ちでサンゴ保全に取り組みたい」と述べた。

## 【中四国】

### ●小学生がサンゴの移植を体験

徳島県海陽町の穴喰小学校 6 年生が、環境学習の一環として、近くの竹ヶ島海中公園でサンゴの移植を体験した。これは穴喰漁業協同組合青壮年部が取り組んでいるサンゴの移植事業に協力する形で実施したもので、公園内で折れた 10cm 程度のエダミドリイシの枝を石などに小学生がボンドで固定したものを海底に沈める。潜水作業は漁協青壮年部員が行う。



サンゴの移植がサンゴ礁の復活に有効かどうかについては、学会でも議論のあるところで、安易に小学生にサンゴ移植を勧めるという環境学習には疑問を持たざるを得ない。

## ●原発予定地の前でクロサギが繁殖？ 環境アセスの不備がふたたび

山口県上関町長島田ノ浦の原発建設予定地のすぐ前にある鼻線島で、今月、山口県のレッドデータブックに準絶滅危惧種として記載されているクロサギらしい営巣が発見された。長島の自然を守る会では、2月20日（今日）記者会見をして巣と見られる写真を発表し、中国電力の環境アセスの杜撰さが再び明らかになったとして、環境アセスのやり直しを強く要求した。上関では、21日の朝から中国電力が大勢の作業員と監視船を出して、いっせいに工事にかかろうとしているとの情報があり、現地は緊迫した空気が流れている。クロサギの営巣発見が、中国電力による埋め立て工事強行を中止させることができればうれしいが。

### 【沖縄】

## ●砂の搬入を市民らが阻止 東江「海岸高潮対策事業」

沖縄県が名護市東江で進めている「海岸高潮対策事業」で、美しい自然海浜を埋め立てて人工海浜を造成する工事が2月10日に始まったが、「名護の自然を守り、次世代に残したい市民有志の会」など反対する市民らが沖縄県に話し合いを求めている最中に工事を始めるのはおかしいと現場に座り込んで砂の投入を阻止した。事業の担当者は「沖縄県の事業であり、地元（区長ら）の了解を得ている」として市民らに立ち退きを要求したが、住民らは座り込みを続け、作業は中断したままである。市民らは下記のような話し合いの場を求めて沖縄県に要求書を提出した。

東京湾三番瀬など人工干潟の造成に住民が異議を唱えているところはまだ少数であるが、沖縄などの多くの海岸で自然海岸を埋め立てて人工海岸・人工干潟が作られてしまっている。名護市東江の事態は、日本でも初めての住民による自然破壊型海岸防災工事への実力による工事の停止である。今後は、環境への住民の理解が進むにつれて、このような防災に名を借りた自然破壊型公共工事への反対は強まって行くことが期待される。

国定公園名護市東江海岸の防災および生態系保全が両立する合意形成のための円卓会議の開催を求めます

2011年2月10日

私たちは名護の豊かな歴史と自然生態系に魅せられ、その多様性をこよなく愛する市民です。昨年秋に、やんばるの海岸線の現状を巡検した折に、私たちは、名護市の玄関口である東江海岸の護岸の中に偶然に類稀なサンゴ礁生態系を発見しました。すでに昭和の時代に国道58号線の建設のために埋められた国定公園内のサンゴ礁。また海岸線を埋め立てて道路を造ったために、度重なる台風による高潮被害、それを受けての護岸工事が始まりました。

安全第一の直立護岸から海岸法の改正を受けての「環境保全」型の「防災・環境・利用」の新しい海岸

整備としてこの東江海岸高潮対策事業が平成13年から始まったのです。護岸建設の完了する前の平成14年には台風16号による高潮被害はでたものの、護岸が完備されてからは、高潮による被害は出ていず、むしろ「突堤・人工リーフ・養浜」のセット設計による海流の変化や、飛砂による新たな被害も始まっています。

私たちは新に発見された貴重なサンゴ礁生態系の保全だけでなく、防災においても、閩雲に一部住民の意見を根拠に事業を進めるのではなく立ち止まり、新たな情報を元にして、地域住民を中心に情報を公開し、様々な意見を交換して、より良い事業をすすめるべきだと考えています。

①工事開始から10年が経過し、時代状況や住民・市民の意識にも変化があり、現場海域に残され、再生しつつあるサンゴ礁生態系を知った住民・市民は一樣にこれを残して欲しいと要望していること

②サンゴの研究者・専門家によって現場海域のサンゴ礁生態系の価値は高く評価されており、安全面も含め児童生徒の環境教育の場として最適であり、また名護市の観光資源としても貴重であると認められること

③すでに養浜された部分において飛砂被害や新たな危険が生まれていること

④生物多様性の保全・回復が国や県の重要な戦略となっている現在、埋め立てによって失われた名護湾の生態系を再生していく拠点になるとともに、住民生活の安全と生物多様性の保全が両立する新たな海岸防災のあり方をつくっていくモデルケースとなりうること

——などの理由から、私たちは次のことを要請しています。

1. 地元住民、市民、研究者や専門家、担当行政、業者など、この事業に関係するさまざまな立場、さまざまな意見を持つ主体が一つのテーブルを囲み、合意点を見出すための円卓会議を貴事務所の主導で開催すること

2. 上記円卓会議において合意点を見出すまで砂の投入を凍結すること

以上

名護の自然を守り、次世代に残したい市民有志 吉元宏樹 鈴木雅子 有光智彦

連絡先：090-8032-2564

## 2. 海の生き物を守る会活動予定

### ●泡瀬干潟埋立事業中止へのアピールに参加

「海の生き物を守る会」では、「泡瀬干潟を守る会」など多くの団体による泡瀬干潟の埋立を中止するよう要求するアピール文への賛同を表明した。アピール文（案）は以下の通り。2月28日に発表される予定。

### 生物多様性の宝庫を破壊する、経済的合理性の無い新規泡瀬埋立事業は直ちにやめよ （アピール案）

2010年10月、日本が議長国になって開催された生物多様性条約締約国会議は多くの成果を得た。その成果の一つに2011年以降の新戦略計画（愛知目標）採択がある。その愛知目

標のビジョン（展望）、ミッション（使命）は次のように述べている。

ビジョン（展望）：この戦略計画のビジョンは、「自然と共生する」世界であり、すなわち「2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、それによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界である。

ミッション（使命）：生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。これは、2020年までに、回復力のある生態系と、その提供する基本的なサービスが継続されることが確保され、それによって地球の生命の多様性が確保され、人類の福利と貧困解消に貢献するためである。これを確保するため、生物多様性への圧力が軽減され、生態系が回復され、生物資源が持続可能に利用され、遺伝資源の利用から生ずる利益が公正かつ衡平に配分され、適切な資金資源が提供され、能力が促進され、生物多様性の課題と価値が主流化され、適切な政策が効果的に実施され、意思決定が予防的アプローチと健全な科学に基づく。（以上は、環境省の日本語仮訳・環境省HPより）

このビジョン、ミッションに基づく20の目標を、日本国は2020年までに達成する義務を負っている。

ところで、沖縄県・沖縄市の東海岸にある泡瀬干潟・浅海域は、2010年9月、環境省がラムサール条約登録の潜在候補地に指定したことも明らかのように、ラムサール登録の世界的基準の4つを満たす、国際的にも貴重な生物多様性の宝庫である。2004年以降、この泡瀬干潟・浅海域周辺で新種が10種以上発見され、沖縄県も「レッドデータおきなわ」で、128種の絶滅危惧種を発表し、国（沖縄総合事務局）もそれを確認している。泡瀬干潟・浅海域は世界に誇る生物多様性の宝庫である。

ところが、その泡瀬干潟・浅海域が、沖縄県・沖縄市の「東部海浜開発事業」（土地利用計画沖縄市案・2010年7月）に基づく新規泡瀬干潟・浅海域埋立事業で、埋められようとしている。この計画に経済的合理性は全く無い。いくつかを指摘する。①この計画の根本である、観光客数や宿泊需要の予測が、内閣府沖縄振興局も「統計学的なレベルに達していない、一つの指標」と認めざるを得ないほど、あまりにも杜撰である。②計画の要はスポーツコンベンション拠点形成、民間部門（宿泊・商業・医療）であるが、スポーツコンベンションは沖縄市も年1.8億円の赤字を想定し、民間部門も企業誘致が不透明であるなど赤字が想定され、沖縄市の活性化にならず、逆に県・市の財政を圧迫する。

政府も、ラムサール条約締約国、生物多様性条約締約国の責任として、また、泡瀬埋立にたいするこれまでの言動からして、沖縄市案を認めることが出来ないはずなのに、前原・馬淵国交相・沖縄相(当時)は沖縄市案を認め、新規の埋め立て事業再開を表明し、沖縄市案に基づく埋立計画の一部変更の手続きを進めている。2009年9月に発足した民主党政権は、公共事業に対して、「コンクリートから人へ、無駄な公共事業を中止する(マニフェスト)」、「泡瀬干潟干拓など環境負荷の大きい公共事業は、再評価による見直しや中止を徹底させます(政策インデックス)」、「(泡瀬)埋立事業第一期エ事はすでに始まっているが、



「埋立事業中止」を含めて「一期中断、二期中止」など見直す（沖縄ビジョン2008）」と  
していた。また、前原大臣(当時)は、2009年9月17日、「1区中断・2区中止」表明の際、今後は  
泡瀬裁判の控訴審の結果も見ながら対応するとしていました。控訴審判決（2010年10月  
15日）は、一審（2009年11月19日）に続き「埋立事業に経済的合理性はない、事業に公金  
を支出するな」でした。さらに判決は、「新たな土地利用計画に経済的合理性があるか否  
かについては、従前の土地利用計画に対して加えられた批判を踏まえて、相当程度に手堅  
い検証を必要とする」とも指摘しています。そして、10年3月の参議院沖特委では、「泡  
瀬埋立と新港地区東埠頭浚渫はリンクさせない」「（沖縄市案）経済合理性があるか、厳  
しくチェックし対処する」と答弁していました。

私たちは、民主党政権が政権発足当時の原点に立ち戻り、自然環境保全の政策を実行する  
ことを強く要望する。沖縄市・沖縄県に対しては埋立計画案を撤回することを求める。この  
ような経済的合理性の無い、沖縄市・県に財政負担を押し付ける計画で、生物多様性の宝庫  
が破壊されることを、私たちは看過することは出来ない。

私たちは、生物多様性の宝庫を破壊する、経済的合理性の無い新規泡瀬埋立事業を直ちに  
止めることを訴える

## ●ジュゴンのスタディ・ツアー参加者募集

海の生き物を守る会では、今年もジュゴンの調査に同行するスタディ・ツアーを行います。  
参加希望者は早めにお知らせください。詳細は、直接交渉で決めます。

ミンダナオ島マリタでは、過去何回かジュゴン観察ツアーを行ってきました。でも、最近  
はジュゴンの出現が少なくなっているようです。そこで、今年はジュゴンの観察に加えて、  
ジュゴンの餌となる海草の分布状況や川の水質を調べることにしました。そこで、これら  
の調査の手伝いをしていただける方を募集しています。海草（ウミヒルモ）の生えている  
場所は、水深 3m～20m ですので、SCUBA 潜水の十分な経験のある方の参加を希望します。  
もちろん、潜水はできないがジュゴン観察に参加したいという人も歓迎します。調査責任  
者：向井宏・Emily Antonio（京都大学） 現地対応者：Dr. Ruth Lucero 南太平洋農業海洋技  
術大学)

日程：2月25日～3月4日

場所：フィリピン国ミンダナオ島南ダバオ州マリタ市ほか

参加費用：1日約5000円以下（宿泊、食事、現地移動費含む。航空賃は各自負担）

注意：ミンダナオ島は、外務省が危険地帯としてなるべく行かないように勧告している場  
所です。調査場所は安全な場所ですが、安全を完全に保証するものではありません。参加  
は自己責任でお願いします。きっと楽しい調査旅行ができると思います。

問い合わせ先：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) 向井まで。

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【国際】

#### ●ミッドウェイ・ツアー 参加者募集 「OWS」

米国・魚類野生生物局(FWS)のジョン・クラビッター氏によると、ミッドウェー環礁イースタン島で11月16日、アホウドリの産卵が確認された。このアホウドリは、伊豆諸島鳥島で標識された8歳のメスと24歳のオスという年の差カップル。現在、FWSではビデオモニターを設置し、リアルタイムで慎重に観察を続けている。これは10年前にFWSの要請を受け、OWSの長谷川博会長が寄贈して設置されたデコイ作戦の成果ともいえ、鳥島、尖閣諸島に次ぐ世界3番目のコロニー誕生が現実のものとなりつつあることを示すものである。OWSでは、[今年\(2011年\)6月にミッドウェーツアー](#)を計画しており、現在参加者を募集している。

### 【関東】

#### ●OWSが砂浜海岸生物調査 参加者募集

砂浜海岸生物調査は、「海の生き物を守る会」が提唱している市民調査で、海の生き物に棲みやすい自然環境を守るため、砂浜海岸とそこに棲む生き物の現状を調べ、そのデータを基に生き物の保護・保全を啓発し、海岸保全施策に反映させるために行います。今回は、OWSネイチャーガイドが調査方法や生きものについて解説しながら実施します。



開催日	2011年3月19日(土)
開催場所	神奈川県足柄下郡真鶴町 岩海岸／吉浜海岸
集合・解散	JR 東海道本線「真鶴駅」改札口 10:30 集合／17:30 解散 ※往路のみ、新宿駅からスタッフの車に同乗できます。(新宿駅 8:00 集合 片道 1,000 円)
ガイド	後藤健太郎 (OWS 職員・OWS ネイチャーガイド)
定員	10 名 (最少催行人員 2 名)
持ち物	下記装備をお持ちの方は是非お持ちください。 ・デジカメ・フィールドノート・筆記用具・双眼鏡 ・ルーペ・採集袋・図鑑

参加費	2,000 円(税込) ※現地交通費・保険料が含まれます ※昼食はついておりません
お申込み	電話(OWS 事務局 03-5960-3545)
お問合せ	またはこちらの <a href="#">フォーム</a> よりお問い合わせください。 ※連絡なくキャンセルされた場合は、キャンセル料を申し受けます。



●高木基金 第 10 回助成公開プレゼンテーション

< 3 / 1 2 (土) ・東京 ・港勤労福祉会館 >

高木基金は、生涯をかけて、在野の立場から核・原子力問題への専門的批判に力を尽くした高木仁三郎の遺志に基づき、「市民科学」を志す市民研究者・グループへの調査研究・研修を助成しています。今年度は第 10 回目の募集を行い、国内向けの調査研究助成（予算 650 万円）に合計 45 件（応募金額合計 3,323 万円）の応募がありました。先頃行われた選考委員会では、このうちの 14 件（同 1,171 万円）が書類選考を通過しました。

これを受け、最終選考の一環として、恒例の公開プレゼンテーションを開催します。公開プレゼンテーションでは、書類選考を通過した応募者のみなさんに調査研究のねらいや具体的な実施計画などを発表していただきます。ご支援を頂いているみなさまや一般の方々にもご参加いただき、応募者と顔を合わせ、直接、意見交換をしていただく中で、「市民科学」にふさわしい助成先を選びたいと考えております。

日 時 : 2011 年 3 月 1 2 日 (土) 9:30 開場 10:00 開会 18:00 頃 閉会  
場 所 : 港勤労福祉会館 第一洋室 東京都港区芝 5-18-2  
JR 山手線 田町駅西口から徒歩 5 分  
都営地下鉄 三田駅 A 7 出口から徒歩 1 分  
参加費 : 無料 (会場でのカンパにご協力ください。)  
申込み : 準備の都合上、3 月 9 日(水)までに E-mail [info@takagifund.org](mailto:info@takagifund.org) 又は  
Fax 03-3358-7064 へお申し込みください。(当日参加も可能です)



高木基金 第 10 回公開プレゼンテーション プログラム

- 10:00 開会・趣旨説明
- 10:15 調査研究計画の発表 午前の部 助成応募金額
  - 長島の自然を守る会 / 高島 美登里さん ----- 【100 万円】  
『埋め立ての危機に瀕する上関原発予定地および周辺海域の生物多様性の立証』
  - ピープルズ・プラン研究所 / 山口 響さん ----- 【100 万円】  
『在沖米海兵隊グアム移転がグアムと北マリアナ諸島に与える影響の研究』
  - 海岸生物環境研究会 / 山下 博由さん ----- 【80 万円】

『原子力発電所周辺における海岸生物相の研究』

- 六ヶ所再処理工場放出放射能測定プロジェクト  
／ 古川 路明さん ———— 【100万円】

『六ヶ所再処理工場からの放射能放出に関する調査研究』

12:10 昼食休憩（60分）

13:10 調査研究計画の発表 午後の部・前半

- 北限のジュゴンを見守る会 / 鈴木 雅子さん ————— 【74万円】  
『草の根市民による沖縄のジュゴン保護活動の構築』
- カネミ油症被害者支援センター / 石澤 春美さん ————— 【100万円】  
『厚生労働省実施「油症患者に係る健康実態調査」検証報告書の作成』
- 諫早湾アオコ研究チーム / 梅原 亮さん ————— 【100万円】  
『諫早湾干拓調整池におけるアオコの大発生とアオコ毒の堆積物および水生生物への蓄積と健康リスク』
- モペツ・サンクチュアリ・ネットワーク / 小泉 雅弘さん ———— 【97.6万円】  
『産業廃棄物最終処分場建設がモベツ川水系の野生サケの遡上・産卵に及ぼす影響に関する市民調査』

15:05 <休憩>

15:20 調査研究計画の発表 午後の部・後半

- 山下 正寿さん ————— 【100万円】  
『ビキニ水爆実験被災船員の実態調査と事件の実相解明』
- 原発老朽化問題研究会 / 伴 英幸さん ————— 【97万円】  
『玄海1号炉の高い脆性遷移温度の検討』
- チェルノブイリ救援・中部 / 池田 光司さん ————— 【50万円】  
『チェルノブイリ原発事故被災地におけるバイオエネルギー生産と農業復興の試み』
- 化学物質による大気汚染から健康を守る会（VOC研）  
／ 津谷 裕子さん ————— 【100万円】  
『合成樹脂系VOCの健康影響実態調査』

18:00頃 閉会

やむを得ない事情により、発表者や発表時間帯が変更になる場合もありますので、ご了承下さい。それぞれの調査研究計画の概要は高木基金のウェブサイトでご覧になれます。

<http://www.takagifund.org/activity/2010/20110312kp.html> からアクセスしてください。

-----  
特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-21 戸田ビル 4F

TEL 070-5074-5985 FAX 03-3358-7064 URL <http://www.takagifund.org>

E-mail [info@takagifund.org](mailto:info@takagifund.org) 郵便振替口座 00140-6-603393

## ●国際シンポジウム「カンムリウミスズメと上関（瀬戸内海）の生物多様性」 東京圏サポーターズ会議

1. 日 時 2011年2月22日（火）18：45～20：30
2. 場 所 総評会館5階501会議室
3. 内 容 ①国際シンポジウムの位置付けと内容について  
②シンポジウムを支援頂く団体等からのメッセージ  
③今後の取り組みについて
4. その他 資料の準備等ありますので、出席くださる方はご連絡いただくと幸いです。  
長島の自然を守る会 代表 高島美登里 [midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp)  
〒742-1403 山口県熊毛郡上関町大字室津836  
TEL 090(8995)8799 FAX 0820(62)0710

## ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映

2月19日（土）から、「ミツバチの羽音と地球の回転」が渋谷のユーロ・スペースにて公開されます。公開を記念して、鎌仲ひとみ監督とスペシャルゲストによる、スペシャルトークイベントが開催されます。先日発表し、チラシ等にも掲載しておりますトークイベントの日程が、一部変更となりましたので、お知らせ致します！

- 2月19日（土） 鎌仲ひとみ監督  
2月20日（日） Candle JUNE [キャンドル・ジュン] さん（キャンドルアーティスト）  
x 鎌仲ひとみ監督  
2月26日（土） 中沢新一さん（人類学者） x 鎌仲ひとみ監督  
2月27日（日） 飯田哲也さん（環境エネルギー政策研究所所長） x 鎌仲ひとみ監督 ★変更  
3月5日（土） 堤 未果さん（ジャーナリスト） x 鎌仲ひとみ監督  
3月6日（日） 上杉隆さん（ジャーナリスト） x 鎌仲ひとみ監督  
3月12日（土） 池田香代子さん（翻訳家） x 鎌仲ひとみ監督  
3月13日（日） 鎌仲ひとみ監督 ★変更

## ●映画「祝の島」上映会

### 「祝の島」こたつ団らんツアー

映画『祝の島』をより日常に近い距離でご覧頂く上映ツアーです。この映画たくさんの方たちに届けたい、という思いから始まりました。上映機材はすべて持ち込み、スタッフが出張して上映する、映画の出前のような新しい試みです。

スケジュールは以下の通り

日時	場所	会場	問合せ先
----	----	----	------



2月23日(水) 2月24日(木) 19:30～	神奈川県 藤沢市	パパラギ 藤沢店	0466-26-6101 ( <a href="#">パパラギ</a> 事務局)
2月26日(土) 13:30～	大阪府 大阪市	大阪経済大学 C-31号室	06-6475-8885 ( <a href="#">あおぞら財団</a> 小平)
2月26日(土) 14:00～	神奈川県 横浜市	市従会館多目的ホール	045-241-2744 (横浜市立高等学校教職員組合本部 渡辺)
2月27日(日) 13:00～	東京都 千代田区	PARC (パルク)	soumu★ <a href="#">parc-jp.org</a> 03-5209-3455 (高橋)
2月26日(土) 2月27日(日) 両日 10:00～ 12:30～ 15:00～	福岡県 福岡市	西南学院大学東キャンパス内 西南コミュニティセンター・ホール	092-823-3919 <a href="#">mtamura★seinan-gu.ac.jp</a> (西南学院大学 田村)
3月1日(火) 19:30～	東京都 中央区	パパラギ 東京八重洲店	0466-26-6101 ( <a href="#">パパラギ</a> 事務局)
3月4日(金) 10:30～	東京都 青梅市	高山家	080-6528-9663 (高山)

## 【中部・北陸】

### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 佐久市

日時：2011年3月26日(土) 第1回上映 14:00～16:15/休憩 16:15～16:30/監督講演 16:30～18:00 (講演 60分、質疑応答 30分) /休憩 18:00～18:15/第2回上映：18:15～20:30

場所：長野県佐久市佐久平駅南 4-1 ([地図](#))佐久勤労者福祉センター・ホール/佐久市佐久平駅南 4-1

【参加費】前売 1000円/当日 1200円/高校生以下は主催者にお問い合わせください

【主催】「ミツバチ」上映実行委員会あさま 【問合せ先】ササキ/090-9069-8208

## 【東海】

### ●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 no.1」上映会+ライブ+ぶんぶん ART の展覧会 in 名古屋

日時：2011年3月8日(火曜日) 開場 18:30/上映 19:00

場所：名古屋市中区大須 4-1-12 ([地図](#)) Hemp&Natural 麻芽 2階「賽ノ目」  
名古屋市中区大須 4-1-12

【参加費】2000円 (1ドリンク付) 【主催】Hemp&Natural 麻芽

【問合せ先】かとう／052-243-7242／ [at.mongol@gmail.com](mailto:at.mongol@gmail.com)

「ぶんぶん通信 no.2」上映会+ぶんぶん ART の展覧会 in 名古屋

日時：2011年3月12日(土曜日) 開場 18:30 / 上映 19:00

場所：名古屋市中区大須 4-1-12 ([地図](#)) Hemp&Natural 麻芽 2階「賽ノ目」  
名古屋市中区大須 4-1-12

【参加費】1000円 【主催】Hemp&Natural 麻芽

【問合せ先】かとう／052-243-7242／ [at.mongol@gmail.com](mailto:at.mongol@gmail.com)

「ぶんぶん通信 no.3」上映会+ぶんぶん ART の展覧会 in 名古屋

日時：2011年3月15日(火曜日) 開場 18:30 / 上映 19:00

場所：名古屋市中区大須 4-1-12 ([地図](#)) Hemp&Natural 麻芽 2階「賽ノ目」  
名古屋市中区大須 4-1-12

【参加費】1000円 【主催】Hemp&Natural 麻芽

【問合せ先】かとう／052-243-7242／ [at.mongol@gmail.com](mailto:at.mongol@gmail.com)

## 【近畿】

### ●第2回 生物多様性 シンポジウム

～つながる すべてのいのちのために～

『名古屋COP10をふまえて、これから私たちにできること』

~~~~~

地球の今に目を向け

未来の地球をイメージし

今、わたしたちにできることを

一緒に考えましょう

日時：2011年3月6日(日) 13:00～17:00

場所：港近隣センター (地下鉄中央線「朝潮橋」駅より徒歩8分)  
大阪市港区八幡町 1-4-20

参加費：1000円

問合せ：メール [522parade@gmail.com](mailto:522parade@gmail.com) TEL 080-1522-9817 (まつむら)

主催：生物多様性パレード on 御堂筋実行委員会 <http://parade1.typepad.jp/blog/>

### ●奇跡の海 瀬戸内海生物多様性のホットスポット

## 上関の自然を守ろう！原発建設を止めよう！ 関西の集い

3月20日（日）14：00～17：00

エル・おおさか（天満橋）2F文化プラザ

講演：向井宏 京大フィールド科学教育研究センター特任教授

「上関の海の生き物の多様性と重要性、原発の問題点」

山口県上関町田ノ浦が中国電力の原子力発電建設予定地になって30年、祝島の漁民・住民を中心に中国地方の反原発の市民、労働組合などによる反対運動が粘り強く続けられてきました。この10年、上関は新たな注目を集めています。専門家たちによる調査の結果、上関の海にはたくさんの貴重な生物が生きていることがわかりました。まだ名前も付けられていない、学問的にも貴重な貝や魚、瀬戸内海のほかの場所ではほとんど消えてしまったたくさんの生物が生き続けていたのです。今や、生物多様性のホットスポット、瀬戸内海再生のもとになると生物を研究する学者たちからも保存を求める声が強くなっています。原発建設のための海の埋め立てを中止させ、海と陸と一体で保存することが大事です。

4月10日には広島で国際シンポジウム（長島の自然を守る会主催）が行われます。シンポジウムに協力し、上関原発の建設を止め、上関の自然を守る活動を関西でもっと大きくすることを目指して「集い」を行います。たくさんの団体・個人の賛同・協力をお願いします。

呼びかけ：地球救出アクション97（連絡：稲岡美奈子 TEL.072-336-7201）

原発の危険性を考える宝塚の会（連絡：中川慶子 TEL.0797-88-1381）

## ●奇跡の海 上関の自然を守ろう！ 国際シンポへ向けて京都の集い

4月3日（日）前半14:00～ 後半（未定）

場所：京都、堺町画廊

前半のゲスト：向井宏、後半のゲスト：加藤真とともに、お茶を飲みながら上関の自然と原発計画について語りましょう。

高野潔樹さんの上関長島の唄も披露されます。

主催：堺町画廊

## ●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 no.2」上映会＋祝島ツアー説明会 in 吹田市

日時：2011年3月5日（土曜日）開場13:30／上映14:00／祝島ツアー説明会

場所：大阪府吹田市泉町5-1-18（[地図](#)）モモの家／吹田市泉町5-1-18

【参加費】1000円（びわ茶とお菓子付）

【主催】みつばち茶会／<http://www.waku-waku.org/888/>

【問合せ先】さかした／090-5253-2703／[kazuey113@sakai.zaq.ne.jp](mailto:kazuey113@sakai.zaq.ne.jp)

## 【中四国】

### ●「沖縄から上関へのメッセージ」

真喜志好一（まきし・よしかず 建築家）講演会

日 時 2011年2月27日（日）13:00～15:00

場 所 上関町中央公民館 1F 講堂

演 題 “いま沖縄から見える世界—文化の創造と環境の保全という課題への挑戦”

参加費 無料

主 催 長島の自然を守る会

あしもとの経済的な活気に沈滞感があるなか、外からの視点で山口を見つめ直してみる機会をもちませんか。

沖縄の建築家・真喜志好一（まきし・よしかず）さんが、風土を生かした大学（キリスト教短期大学）のキャンパスの設計によって、建築学会賞に輝いたとき、沖縄の自然と文化を守るためのさまざまな市民活動の仲間たちは、「真喜志君、本当に建築もしてたの？」と驚いたといひます。時間の半分はそうしたボランティア活動に使うという真喜志さんからの山口の私たちへのメッセージに耳を傾けましょう。

長島の自然を守る会 代表 高島美登里 [midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp)

〒 742-1403 山口県熊毛郡上関町大字室津836

TEL 090(8995)8799 FAX 0820(62)0710

## 【九州】

### ●和白干潟のクリーン作戦と自然観察

「干潟・湿地を守る日2011」参加企画

#### ■行事内容の紹介

和白干潟のクリーン作戦と水質調査や砂質調査をします。その後皆で自然観察をしたり、お茶をのみながら交流会をします。

和白干潟沿岸に流れ着くゴミやアオサを清掃します。和白干潟がラムサール条約登録湿地となるように、お掃除や観察会をして守っていきたいと思います。長靴をはいてきてください。駐車場がありませんので、公共交通機関でお出でください。ご参加を待ちます。

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 開催日時 | 4月23日（土）午後3時～5時 小雨決行      |
| 開催場所 | 博多湾・和白干潟                  |
| 集合場所 | 和白干潟・海の広場（福岡市東区和白4丁目海岸）   |
| 参加費  | 無料                        |
| 注意事項 | 汚れてもいい服装で、長靴持参            |
| 交通機関 | 西鉄唐の原駅下車5分 JR 香椎線和白駅下車10分 |
| 連絡先  | 090-1346-0460 （田辺）        |

## 【沖縄】

## ●サイエンスカフェ「海の生き物塾」復活！

<http://blog.canpan.info/marinelearning/archive/190>

海の自然史研究会（海研）の設立前および設立直後に行なっていたダイバー向けのサイエンスカフェ「海の生き物塾」が復活します。

日時： 2/24(木)19:00～21:00

場所： 嘉手納漁港施設二階 〒904-0204 沖縄県中頭郡嘉手納町水釜 5 6 6 &#8722; 7

参加費： 5 0 0 円/一人

参加申し込み：[okinawa@bluefi.com](mailto:okinawa@bluefi.com) （担当：ブルーフィールド 五十嵐）

講演題目 『海に生きる寄生虫—儂く美しいモンスターたち—』

講師：上野大輔（海研 研究員）

## 4. 新連載：きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その1)】

久保田 信

### 1 南紀白浜は海の宝の国

・ 1人1人が1種の生き物の一生を調べてみよう

新連載をこれから続ける南紀白浜（和歌山県西牟婁郡白浜町）のくぼたしんです。創立90年の京都大学瀬戸臨海実験所に18年ほど勤務しています。よろしくお願いします。

私の部屋には世界地図や地球儀がおいてある。なぜかって？海の星の地球だけど、たくさんさんの国があって、いろんな人たちがそれぞれの暮らしをしていることをいつも思うようにしているからだ。これまでいろんな国へ行って、エクゾチックな生き物や人間に出会って、日本中も30年以上かけて海岸をぐるりとまわって一番好きなクラゲの研究を重ねてきた。そんな経験からいえるのは、南紀白浜は最高の所だ。何が最高かという、様々な生き物たちが人間といっしょにくらしているからだ。これは、かけがえのない宝が目の前にいっぱいころがっているということだ。山も川も池も、どれも素晴らしい白浜だけど、なんといっても海がすごい！生命の母なる海。

毎日、田辺湾と鉛山湾をながめ、そこに潜む生き物に思いをめぐらす。実際に京都大学瀬戸臨海実験所周辺の磯や浜、近くの漁港へ出かけて、日々に出会う生き物は、その形や色など、どれをとっても好奇心をくすぐり続けてくれる。もしも刺激的な出会いがな





くてもくそんな日はないけど>、実験所の水族館には、覚えきれないほどの動物たちが飼育展示されている。よくわかる説明のパネルもあちこちにある。説明の全部が頭にはいつている人などだれ一人もいないだろう。こうして、毎日が飽きることない多様な自然に触れられることの幸せは白浜のかけがえのない宝のおかげだ。人間はやはり自然の中で生活すべきだ。

だから、白浜に住めるのは幸せだ。てつかずの自然が心を癒し、励ましたりしてくれるからだ。人情もあつたかくて、気候も暖かい土地柄とぴったりマッチしている。おまけに日本一古くて質のよい温泉があちこちにあつて疲れも癒える。心だけでなく、体も健康にしてくれる。小学校の時から傷んでいた右肩だったが、赴任後の数年間、毎日入ったばかりの温泉でそれ以来、完全に直ったというより120%になっている。このように、つきない自然と温泉と人情の町である白浜に住めて、いくらでも自然の勉強をすることができる。

生きるのにとっても大事だと主張したいことがある。どんな生き物でもいいから、かれが一生をどのように生きるのかあれこれ調べてみるのは命の尊さをしかと知れる。君もクラゲ博士になって世界一クラゲのことを説明できる人になろう。貝博士になってもいい。動物だけで140万種ほどがこの星でくらしているのだし、同じ種でも所変われば品種が違うので、どんどんやることは無限にある。一生つきあってもいい、おもしろい生き物を見つけて、末長くおつきあいをしよう。その生き物がどこでどのように生まれ、そだち、何を食べて何に食われ、どんな子供をいつつくって死んで行くか・・・調べてみよう。きっとあつと驚く自然の秘密が、いつまでもいつまでもわいてきて、飽きることなど決してない人生がすごせるはずだ。そして、もっとつつこんで、かれの祖先が、いつどこでどのようにこの星で生まれ、これからどうなっていくか考えてみよう。食物連鎖のなかで、切磋琢磨している、けなげで厳しい姿もよくわかるだろう。

今回はこのへんで、最後に、とっておきの本を紹介しよう。水の中にすむふしぎな生物がわかる絵や写真がいっぱいの図鑑で、小学館発行の「水の生物」。大人から子供まで楽しめる。もう一つは、これはいつもいう癖がついているのだけど、多細胞動物の中で、唯一、何度でも若返れる、不老不死のクラゲのことを日本での100年の研究の歴史を簡潔にまとめた本で、宝の海に生きる最高の生き物だ。それは、「神秘のベニクラゲと海洋生物の歌・・・」。どちらの本も値段が安くて手に入れ易い。そういえば、まだまだ紹介したい、そう、手前味噌の本があるのだけど・・・それは次回に紹介しよう。加えて、生き物や化石の歌もあるのです・・・♪ (つづく)

#### \*\*\*\*\*著者プロフィール

くぼた しん 1975年愛媛大学理学部生物学科卒。1981年北海道大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程修了(理学博士号)。1982年北海道大学理学部助手、1989年同講師。1992年1月から京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所助教授。同実験所は、1998年4月から同大

学大学院理学研究科、2003 年 4 月から同大学フィールド科学教育センターの所属。無脊椎動物学、特に腔腸動物の系統分類・生態学が専門。日本動物学会▽日本動物分類学会▽日本プランクトン学会▽日本ベントス学会▽日本生物地理学会▽日伊生物学会▽漂着物学会▽沖縄生物学会▽南紀生物同好会▽黒潮貝類同好会▽阪神貝類談話会▽和歌山昆虫研究会▽長崎県生物学会▽海の生き物を守る会などに所属。

## 5. 海の生き物に関する論文・書籍・DVDなど

●向井 宏「水産生物の乱獲と海洋保護区」 JAWAN 通信, 98 号

<http://www.jawan.jp/rept/rp2010-j98/j98-01.html>

### 6. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

### 7. 編集後記

年度末の多忙のため、「うみひろも」の配信予定が狂ってしまいました。お待ちいただいた読者の方には誠に申し訳ありません。3 月初めの「うみひろも」も配信できない予定ですので、ちょっと変則ですが、今月の 2 回目の配信は今日 20 日とさせていただきます、次回は 3 月 16 日の予定とさせていただきます。みなさんから多くの情報をお寄せいただけるようになりました。いつもありがとうございます。私の不注意でいただいた情報をきちんと「うみ

ひるも」に書けなかったときもあり、お寄せいただいた情報が「うみひるも」の配信日時にはもはや古い情報となってしまう場合もあります。たいへん失礼なことになってしまうことも多々あると思いますが、なにとぞご容赦ください。(宏)

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひるも』第74号

2011年2月20日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会